

科目名	人間論A(人文・社会科学)
単位数	2.0
担当者	准教授 柿木伸之
履修時期	前期
履修対象	博士前期課程在学者
概要	人間とは何か。この問いは古代ギリシア以来、ヨーロッパの思想史において中心的な問題の一つであり続けてきました。また、ルネサンスにおける「人間」の再発見以来、「人間らしさ」の実現は、文明の発展の目標とされてきました。しかし、今日人間とは何かと問う際に、文明の発展史において想定されてきた「人間」像が、歴史的に作られたものであることを、さらにその歴史が、「人間らしさ」とされてきたものを破壊し、人間自身の生命を根幹から脅かすに至ったことを、けっして忘れることはできません。今や「人間」は、それを想定することの可能性を含めて、根底から問いただされるべき概念と化しています。本講義では、こうした現代の問題意識を踏まえつつ、ヨーロッパの思想史のなかで「人間」がどのように捉えられてきたかを検討することをつうじて、今人間とは何かを問う糸口を探っていきます。
科目の到達目標	人間とは何かとみずから問い、それをつうじておのおのの専門的な営為の位置と意義を見つめ直す、思考の契機と素材を得ることが、本講義の目標とするとことです。
受講要件	日常生活の前提を掘り崩すことを怖れることなくみずから徹底的に問い、考えることに面白さを覚え、講義のなかに答えではなく、自分の問いを見いだそうとする姿勢が、受講の要件です。
事前・事後学修の内容	各回の講義の後で、内容を振り返るとともに、紹介された文献を手にとって問題意識を深めることが求められます。それを前提に成績評価を行いません。
講義内容	以下の流れを予定しています。受講者と相談のうえ、内容などを変更することもあります。 第1回：イントロダクション——人間、この問われるもの(フリーモ・レーヴィ、石原吉郎) 第2回：死すべき者としての人間(古代ギリシアの人間観) 第3回：ロゴスを持つ動物としての人間(アリストテレスとストア派の人間論) 第4回：神の似像としての人間(キリスト教思想の人間論) 第5回：人間らしさの発見(ルネサンスの人文主義) 第6回：知性にして機械としての人間(啓蒙主義の人間論) 第7回：自律としての人間性(カントの人間論) 第8回：歴史において自由を実現する人間(ヘーゲルとマルクスの人間論) 第9回：神なき世界の人間(ニーチェの人間論) 第10回：作る人、遊ぶ人、描く人(ホイジンガ、ヨーナスらの人間論) 第11回：哲学的人間学の展開(シェーラー、プレスナー、ゲーレンの人間学) 第12回：ヒューマニズムとその先(サルトル、ハイデガーの人間論) 第13回：活動する人間(アーレントの『人間の条件』) 第14回：「人間の終焉」の後に(フォーコー、レヴィナス、アガンベンらの人間論) 第15回：まとめ 各回は主にスライドを用いた講義のかたちで進められます。第3回から第14回までは、各回の冒頭で担当者にその前の回の講義の概要をまとめていただく予定です。受講者数によっては、ディスカッションの導入も検討します。
評価方法	講義への参加度(50%)と文献研究の成果(50%)を総合して評価します。講義への参加度は、基本的には各回の講義で考えたことをひと言記すコメントの内容と、持ち回りによる各回の講義のまとめにもとづいて評価することになりますが、受講者数などに応じて別の方法の導入も検討します。文献研究として、講義で紹介した参考文献のうち一冊についての2000字以上の書評を課します。これは学期末に提出していただきます。
教科書等	教科書は使いません。参考文献を講義のなかで随時紹介します。
担当者プロフィール	20世紀のドイツ語圏を中心に、近・現代の哲学と美学を研究しています。近年は、20世紀前半に批評家として活躍したヴァルター・ベンヤミンの思想を軸に研究を進めています。『ベンヤミンの言語哲学——翻訳としての言語、想起からの歴史』(平凡社)、『パット剝ギトツテンマッタ後の世界へ——ヒロシマを想起する思考』(インパクト出版会)などの著書があります。
備考	

科目名	人間論B(自然科学)
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 戸田山 和久
履修時期	前期(集中講義)
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	人間の大きな特徴は「心」をもっていることだと言われてきました。一方で、人間は動物であり、さらに究極的には物質にすぎません。こうした唯物論的な見方に立った上で、人間の心をどのように捉えていけばよいのか、心の科学と心の哲学の交差する領域の問題を考えていきます。
科目の到達目標	心の科学と哲学の基本的問題に入門する。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	先入見を捨てて、頭を柔らかくして、いろいろな考え方につきあってみてください。
講義内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の哲学の課題 2. 心身問題とその展開 3. 現代版心身問題 4. モノだけの自然観から心を追い出す試み 哲学的行動主義 5. モノだけの自然観に心を埋め込む試み 心脳同一説 6. 心脳同一説の問題点 多重実現可能性 7. コンピュータとしての心-機能主義的な心の見方 8. 機能主義の展開 古典的計算主義と認知科学 9. 古典的計算主義への批判 コネクショニズムの見方 10. 機能主義では扱えない心の特質(1) クオリア 11. 機能主義では扱えない心の特質(2) チューリングテストと中国語の部屋の思考実験 12. 機能主義では扱えない心の特質(3) 志向性と意味 13. 「意味」をどう自然化するか 目的論的機能主義 14. Biosemantics 15. まとめ
評価方法	レポート
教科書等	特になし
担当者プロフィール	名古屋大学大学院情報科学研究科教授 科学哲学者です。よかったら、拙著『科学哲学の冒険』(NHKブックス)を読んでみてください。私が何を考えているのかが書いてあります。
備考	

科目名	国際関係と平和
単位数	2.0
担当者	広島平和研究所 所長 吉川 元
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	20世紀を通して今日に至るまでの、国際平和観および安全保障観の変遷と転換について講義いたします。戦争は無条件に否定されねばなりません。だからといって戦争なき平和は無条件に肯定することはできないと思います。平和はそのあり方しだいで人間の安全を脅かすこととなります。戦争の犠牲者数が平和時の権力者(政府)による民衆殺戮の犠牲者数を上回っている事実は、平和が必ずしも人間の安全を保障するとは限らないことを物語っています。なぜ平和な時代に民衆が殺戮の対象になったのか。こうした疑問の上に、20世紀に国際社会が考案した平和の手立て、国際平和秩序の基本理念、および国際安全保障概念の変容について考察し、国際平和と人間の安全保障の双方の実現を目指す平和創造の方法について検討いたします。
科目の到達目標	戦争の原因を探り、また国際平和の手立てと仕組みの変遷をたどりつつ、人間の安全と国際平和の双方の実現を目指す平和論の構築を目指します。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの指定部分を熟読の上、講義に臨むこと。各章を2回に分けて講義しますが、履修者は事前に質問を用意して講義に臨んでください。
講義内容	テキストの『国際平和とは何か——人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』に基づき、第1章から7章まで、各章を2回に分けて講義する。 はじめに 第1章.序章—平和とは何か、戦争とは何か 第2章.国際平和と民族問題 第3章.脆き平和 第4章.「平和共存」平和と人民の戦争 第5章.人間の安全を脅かす国際平和秩序 第6章.「新戦争」とアイデンティティ政治 第7章.安全保障共同体の創造に向けて
評価方法	平常点40%、レポート60%。
教科書等	教科書: 吉川 元『国際平和とは何か——人間の安全を脅かす平和秩序の逆説』中央公論新社、2015年 参考文献: 吉川 元『国際安全保障論』有斐閣、2007年; 吉川他編、『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社2013年。
担当者プロフィール	
備考	

科目名	日本論
単位数	2.0
担当者	佐藤深雪
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	20世紀初頭に、夏目漱石は、自己本位と則天去私にもとづいた個人主義によって独自の立脚点を得た。ヘンリー・ジェームズにおけるヨーロッパとアメリカの関係と対比しながら、漱石の「私の個人主義」と「現代日本の開化」を中心に考察する。
科目の到達目標	20世紀初頭の世界史的な文脈の中で日本文化を考える
受講要件	20世紀の日本について関心をもっている学生、夏目漱石を読みたいと考えている学生。
事前・事後学修の内容	講義にもとづいて、学期末に、漱石の作品一つを取り上げたレポートを作成する。2000字程度。
講義内容	第1回 夏目漱石入門 第2回 自己本位と則天去私 第3回 「明暗」と自由間接話法 第4回 「彼岸過迄」と粹物語 第5回 「現代日本の開化」「私の個人主義」 第6回 「夢十夜」とウィリアム・ジェームズ 第7回 作田啓一『個人主義の運命』 第8回 「坊っちゃん」と山姥 第9回 「門」 第10回 「それから」 第11回 映画「それから」を見る。 第12回 「道草」 第13回 「こころ」 第14回 「こころ」 第15回 まとめ
評価方法	2000字程度の学期末レポートと受講態度
教科書等	漱石の作品は青空文庫に収録されていますが、紙媒体が望ましい。
担当者プロフィール	日本文学・日本文化が専門領域である。人間がさまざまな形式を通して文化に参加する様態について、おもに物語形式を中心に考察している。
備考	

科目名	科学技術と倫理
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 石田 三千雄
履修時期	前期（集中講義）
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	科学倫理や技術倫理、科学者・技術者の責任、技術の文明論的考察、生命操作技術の倫理や生命倫理学の倫理性、科学技術と公共性、市民の関与、技術倫理の課題、技術者倫理教育の現状などを論じる。授業は講義形式で行う。
科目の到達目標	受講生は、科学技術が人間本性や社会のあり方に根ざすことを理解し、市民として科学技術の望ましい推進について判断できる視点を身に付ける。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	日頃から新聞などで科学技術が社会に及ぼす影響や事件などについて関心をもつ。
講義内容	1.はじめにー授業全体の説明 2.科学技術の基盤 3.科学倫理とは何か 4.技術倫理とは何か 5.人間と技術 6.現代文明と技術 7.近代合理性と近代社会 8.近代科学技術の社会的基盤 9.生命倫理の倫理性 10.科学的認識の倫理性 11.科学技術者と市民 12.科学技術と合意形成 13.技術倫理が問われる現場 14.技術者倫理教育の現状と課題 15.まとめ(最終回に試験を行う。)
評価方法	授業への取り組み状況、授業の最後の試験で評価する。
教科書等	参考書:石田他『科学技術と倫理』ナカニシヤ出版、2007年。 必要に応じて資料を配付する。
担当者プロフィール	徳島大学総合科学部教授。フッサー現象学から、科学技術論や自然倫理学まで研究しています。
備考	上記の参考書を参照してもらえば、講義内容が明確になります。

科目名	情報と社会
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 神野新 非常勤講師 桑原俊
履修時期	前期(集中講義)
履修対象	博士前期課程1、2年生
概要	デジタル化、IP化による情報通信技術(ICT)の急速な進化は、IoT、ビッグデータ、AIなどの活用を通じて、電気通信や放送の枠内を大きく超えた社会経済全体に波及しつつある。すなわち、コンピュータ及びそれらを連結するネットワークシステムが重要な社会インフラとなり、私たちの日々の生活や社会情勢、そして企業活動を大きく変革しつつある。本講義ではICTの発展を俯瞰した上で、社会、経済、消費者及び企業行動、国際関係等に与える影響と問題を把握し、今後、どのように問題に対処すれば良いかを検討する。
科目の到達目標	情報化の現状の把握のみならず、どのような社会をいかなる理念の下にデザインすれば良いのか、情報化の将来像について、その問題点も含めて考察してもらいたい。
受講要件	特になし
事前・事後学修の内容	前もって提示された課題について十分な情報収集、考察に努め、その解決に向けた独創的かつ主体的な提案を期待している。
講義内容	<p>第1回(神野/桑原) 全体の講義内容の概説 オリエンテーションとして講義の全体像と各回の概要を解説し、課題図書(資料)の紹介を行う。その上で、講義の進め方や課題報告・討論の方法を説明する。</p> <p>第2回(神野) 社会における情報化の進展(1) 社会変革の現状と課題 IoT、ビッグデータ、AIなどの活用で加速するデータ主導経済が社会変革に及ぼす影響の実態と今後の方向性について概説し、その課題を整理して提示する。</p> <p>第3回(桑原) 社会における情報化の進展(2) 法制度の現状と課題 社会における情報化の進展に、法制度がどのように対応しているのか(していないのか)、インターネット上の法的問題を例に、課題を整理して提示する。</p> <p>第4回(神野) 課題についての報告と討論 第1回、第2回に提示した課題の中から、情報化が企業及び個人の行動に与える影響に関連するものについて報告を求め、講師、学生による討論を行う。</p> <p>第5回(神野) 情報産業を支える技術、業種、事業者 情報産業の発展を支える技術進歩を俯瞰し、同産業を構成する電気通信、放送、ケーブルテレビなどの業種区分や市場構造、さらに事業者の競争と連携の状況を説明する。</p> <p>第6回(神野) 情報化が企業行動、個人行動に与える影響 情報化による企業行動の変化と効率化の実態を説明する。同様に、個人行動の変容についても言及し、両者の行動変革が連動することによる作用を正負の側面から分析する。</p> <p>第7回(桑原) 課題についての報告と討論 第3回に提示した課題(社会における情報化の進展と法制度の対応)の中から、報告を求め、講師、学生による討論を行う。</p> <p>第8回(桑原) 著作権制度とその在り方(1) 情報化社会における法制度の中で、重要な位置を占める著作権制度に関し、著作権制度の目的、著作権の客体、著作権の主体、著作権の内容について説明する。</p> <p>第9回(桑原) 著作権制度とその在り方(2) 第8回に引き続き、著作権制度に関し、著作権の制限、保護期間、著作権侵害の効果、著作権の権利処理について説明する。</p> <p>第10回(桑原) 課題についての報告と討論 第8回、第9回に提示した課題(著作権制度とその在り方)の中から、報告を求め、講師、学生による討論を行う。</p> <p>第11回(桑原) プライバシー・個人情報保護(1) プライバシー権とは何か、判例上どのように保護されてきたか、現代的なプライバシー権の課題は何か等について説明する。</p> <p>第12回(桑原) プライバシー・個人情報保護(2) プライバシーと個人情報の違い、個人情報保護法の背景、内容、課題等について説明する。</p> <p>第13回(神野) 課題についての報告と討論 第6回までに提示した課題の中から、情報化による社会的問題解決に関連するものについて報告を求め、講師、学生による討論を行う。</p> <p>第14回(神野) 情報化による社会的問題の解決 少子高齢化により「課題先進国」と称される日本の諸問題の解決において、情報化が地方創生(再生)、スマートシティなどを通じて果たすべき役割について考察する。</p>

	第15回(神野)まとめと今後の課題への対応 全体の講義について総括し、その過程で明らかになった今後の未解決の課題を明確にし、それらにいかに取り組むべきかの指針を提示する。
評価方法	日常点(出席及び報告・討論への参加状況)60%－出席カードを毎回(15回)配布・回収 レポート(期中に1回提出)40%
教科書等	初回の講義において紹介、説明を行う。(総務省の情報通信白書(無料)を予定)
担当者プロフィール	神野新(株情報通信総合研究所(法制度研究部)主席研究員) 桑原俊(株情報通信総合研究所(法制度研究部)副主任研究員)
備考	・土曜日に集中講義の形で実施。(3コマを1日に集中し、計5日間で15コマを行う) ・上記「課題についての報告と討論」(第4、7、10、13回)については、同一課題を複数人に割り当て、口頭発表の形で実施。履修人数によるが、全講義を通じて1人1回の割り当てを予定。

科目名	道具論
単位数	2.0
担当者	教授 及川 久男 ほか
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	【授業形態:講義】 広島から、道具がどのような存在であるかを論ずる。道具存在論、道具が開く文明と文化の歴史、過去と現在、未来論、形態と機能、美意識の国際比較、美術、工芸とインダストリアルデザインとの違いなど、道具を使う立場、つくる立場、考える立場、商う立場に於ける道具のありようの見方を論ずる。
科目の到達目標	人間が生きていく為に、周囲の世界と交わした対話、それが道具である。人間とともに新しい、この道具世界に、いかに対座するかを追求する。 『もの』と人間の精神復興を願い、身の回りの品々をあらためて再考し、生活革新への指針を示す。
受講要件	それぞれのテーマごとにその道に造詣の深い専門の講師によりオムニバス形式で授業が行われるので、すべての授業に出席することを特に要望する。 外部講師を招いての講義が多く、講師に失礼にならないよう、私語や毎回の著しい遅刻など受講態度の悪い学生は受講を許可しないことがある。
事前・事後学修の内容	栄久庵憲司の著書「道具論」等、出版物を後期中に読むこと。
講義内容	1 導入 道具論の著者栄久庵憲司と広島 2 広島県伝統的工芸品(大竹手打刃物)と安芸十利(針)(苅山信行) 3 安芸十利の一つである鑢(やすり)について学ぶ。(苅山信行) 4 道具と都市Ⅰ 一道具の命―(都市の視座から道具を考える)(大井健次) 5 道具と都市Ⅱ 一道具の創出―(都市の視座から道具を考える)(大井健次) 6 衰退する道具―言霊と文字の象徴・はんこ(服部等作) 7 持続する道具―玉座という王権の空間装置(服部等作) 8 茶道上田宗箇流 茶の湯の心(上田宋岡) 9 身体と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ。Ⅰ(前田育男) 10 身体と道具のかかわりを具体的事例を交え学ぶ。Ⅱ(前田育男) 11 生命の誕生と道具の誕生。「自然と不自然」の相関を考察する。(山田晃三) 12 文明の進展と道具の関わり。「日本の戦後史」から考察する。(山田晃三) 13 熊野書筆(村田隆志) 14 熊野化粧筆(村田隆志) 15 まとめ(提出課題説明等)
評価方法	①授業の理解度を測るため毎回レポートを提出。 ②期末テーマを与えレポートを提出 ①と②の総合評価とする。 S(秀)レポートで90点以上 場合。 A(優)レポートで80点以上 場合。 B(良)レポートで70点以上 場合。 C(可)レポートで60点以上 場合。 D(不可)レポートで60点未満 場合。
教科書等	なし
担当者プロフィール	大井健次(広島市立大学)名誉教授 服部等作(広島市立大学)名誉教授 上田宋岡 茶道上田宗箇流十六代目家元 山田晃三 GKデザイン機構 代表取締役 社長 村田隆志 大阪国際大学 苅山信行 元広島県立西部工業技術センター
備考	

科目名	都市論
単位数	2.0
担当者	非常勤講師 杉本俊多, 非常勤講師 水田 丞, 非常勤講師 千代章一郎, 非常勤講師 森本真, ほか 責任者(吉田幸弘)
履修時期	後期
履修対象	博士前期課程1、2年
概要	グローバル化やマルチメディア技術の普及とともに都市はますます不可視となってきた。機械化、ネットワーク化する都市は、他方で生命体としての人間のエコロジー回帰を促してもいる。そもそも都市とは何だったのか、歴史の原点に遡り、かつ未来都市を構想しつつ、また視野を広く地球規模に広げて、世界に知られる都市広島においてこそ論じなければならない、21世紀の都市像とそのデザイン方法について実践事例や現地見学を含めて講じる。
科目の到達目標	建築デザイン、都市デザイン、まちづくりの観点から、都市の解釈方法、デザイン方法を理解する。都市空間の構成について理解し、将来の都市デザインに向けて、ポキャブラリーや思考方法を習得する。
受講要件	特になし。
事前・事後学修の内容	各講師の指示・推薦する文献等を読み、講義内容と合わせて理解・思考を深めること。
講義内容	第1回 吉田 イントロダクション・広島のみちづくり1 第2回 吉田 広島のみちづくり2・現地講義 第3回 杉本 広島都市空間形成史 第4回 杉本 近代広島都市空間 第5回 千代 ル・コルビュジエの都市論 1 第6回 千代 ル・コルビュジエの都市論 2 第7回 水田 現代都市・建築空間 1 第8回 水田 現代都市・建築空間 2 第9回 吉田 広島建築 1 第10回 吉田 広島建築 2 第11回 森本 他都市圏の建築・エクステリア 第12回 森本 他都市圏の建築・インスタリア 第13回 杉本 ベルリンの都市空間形成史 第14回 杉本 ベルリンに見る現代都市空間デザインの課題 第15回 吉田 まとめ
評価方法	講義終了後、レポートにより評価。
教科書等	講義形式: パワーポイントまたはキーノートを用いて講義。 テキスト、参考資料は各担当講師が指示ないし配布する。
担当者プロフィール	杉本俊多(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門教授 建築史・意匠学) 水田 丞(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門助教 日本近代建築史) 千代章一郎(広島大学大学院工学研究院社会環境空間部門准教授 建築史・意匠学) 森本真(武庫川女子大 准教授) 吉田幸弘(立体造形 教授)
備考	一部広島市内中心部での現地授業があります。